

施策1 ▶▶▶ 保健・医療環境の充実



現状と課題

- 市民一人ひとりの健康意識を高め、誰もが生涯安心して暮らせる社会の実現が求められる。
- 市内医療機関の医師の高齢化により、市内の医療体制の維持が困難な状況になるおそれがあるほか、医療従事者を安定的に確保することが難しくなっており、持続可能な医療提供体制の確保に向けて取り組む必要がある。
- 市民がいつでも適切に医療サービスが受けられるよう地域の医療体制を確保していくことが必要である。

目指す姿

- 子どもの頃から、健康の基礎づくりとなるような生活習慣が身につき、健やかに成長している。
- 一人ひとりが生活習慣病¹¹などの予防に努め、心身ともに健やかに過ごしている。
- 医療提供体制が確保され、必要な時に医療サービスが受けられ、誰もがいつまでも健康で安心して暮らすことができている。



施策の方向

- 市民が様々な機会を通じて、自ら自分に合う健康管理を日常的に行うなど主体的に健康づくりに取り組む環境づくりを推進する。
- 市立病院においては、医師・看護師の確保や効率的な医療の下、経営安定化を図り、安全安心な医療サービスの提供を継続する。
- 市民が安心して医療サービスが受けられるように、中空知医療圏¹²における各病院、医療機関の連携を推進する。
- 周産期から乳幼児期の安心と健やかな成長を育むため、保健と医療の連携を推進する。

¹¹がん、心臓病、脳卒中、糖尿病等

¹²滝川市、芦別市、赤平市、砂川市、歌志内市、奈井江町、上砂川町、浦臼町、新十津川町、雨竜町の5市5町で構成

施策2 ▶▶▶ 地域福祉・自立支援体制の充実



現状と課題

- 超高齢社会を迎え、健康寿命の延伸や介護予防に向けた取組を進めていく必要がある。
- 介護を必要とする高齢者を支える人材が今後不足することが見込まれており、人材確保に向けた取組が求められている。
- 生活環境、家族形態の変化等により、地域住民が抱える課題が複雑化しており、「誰一人取り残さない」地域共生社会¹³の実現が求められている。

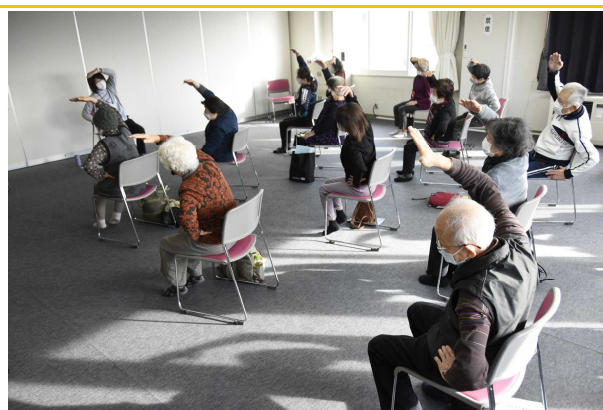


目指す姿

- 高齢者の健康づくりや介護予防の取組が活発に行われ、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気にいきいきと生活ができる。
- 介護人材が確保され、介護を必要とする一人ひとりのニーズに応じたサービスが受けられる。
- 多様な主体による支え合いにより、助けを必要とする人に必要な支援が行われている。

施策の方向

- 高齢者の健康維持に向けた介護予防などの取組や社会参加に向けた取組を推進する。
- 介護が必要な方の増加に対応した介護サービス提供人材の安定的確保を図る。
- 多様化する福祉ニーズに対応するため、住民と関係機関等との連携を深め、地域全体で支え、助け合う取組を推進する。



¹³制度・分野ごとの『縦割り』や「支え手」「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が、『我が事』として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて『丸ごと』つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会

施策3 ▶▶▶ 市民生活の安全確保



現状と課題

- 全国各地で想定を超える豪雨災害や地震が頻発していることから、多くの市民が災害への備えの必要性について、認識を高めてきている。
- 災害発生を防ぐためのハード整備の推進と同時に災害対応が迅速かつ円滑に進められるよう平時からのソフト面での取組が必要である。
- 災害による被害を出さないために、一人ひとりが自らの命を守ることを基本としながら、核家族化や高齢化が進む中における避難行動要支援者のサポート体制の構築など新たな枠組みの検討が必要である。
- 滝川警察署管内における犯罪件数は近年増加傾向にあり、特に巧妙な手口の特殊詐欺被害が多発するなど、市民生活の危険性が高まっており、安全安心なまちづくりのための取組が必要である。

目指す姿

- 災害を未然に防ぎ、被害を拡大させないよう、必要な整備が行われ災害に強いまちとなっている。
- 市民一人ひとりの防災意識が高く、災害時に地域が一丸となって迅速かつ的確に対応できる体制が確立されている。
- 地域全体での防犯活動の取組や防犯意識の向上により、安心して生活ができるまちが構築されている。



施策の方向

- 大規模自然災害の発生や被害の拡大に備え、国・道等へ要請を行いながら、治水対策や緊急輸送道路整備等の促進、幅広い分野での機能強化に努めるなど、災害リスクの回避・軽減に向けた取組を推進する。
- 関係機関や団体等と「顔の見える関係」を構築し、地域防災力の向上や将来の地域防災を担う人材の育成に努めるとともに、災害から自らの命を守るためにとるべき行動を具体的に把握しておき、実践できるよう研修会などを通じたマイタイムライン¹⁴の普及や有事を想定した住民避難訓練等、万が一に備えるための取組を推進する。
- 関係機関と連携しながら地域での防犯活動を効果的に推進するとともに、複雑化する消費生活相談への対応に向けた取組を推進する。

¹⁴住民一人ひとりのタイムライン（防災行動計画）であり、台風等の接近による大雨によって河川の水位が上昇するときに、自分自身がとる標準的な防災行動を時系列的に整理し、自ら考え命を守る避難行動のための一助とするもの。

施策4 ▶▶▶ コミュニティ活動の支援



現状と課題

- 超高齢社会の進展や自然災害の増加により、町内会には、高齢者の見守りや災害対応等、新たな地域課題を解決する役割が期待されている。
- ライフスタイルが多様化する現代において、町内会役員のなり手不足や未加入者の増加等による地域力の低下が危惧され、今後の地域コミュニティの在り方が問われている。
- まちづくりや福祉、環境等共通するテーマ活動が行われるテーマコミュニティ¹⁵の活動が始まっている。



目指す姿

- 地域の中で顔の見える緩やかな関係性の下、見守りや支え合い等の共助が育まれ、住民主体の安全安心で快適な地域づくりが行われている。
- 誰もが担い手となれるスリムな町内会などへ転換し、少ない負担で自主的に運営に参加し、地域コミュニティが持続している。
- 市民の特技や経験をいかし、地域の課題解決に取り組み、活力あるまちづくりを目指した様々なテーマコミュニティ活動が活発に行われている。



施策の方向

- 滝川市町内会連合会連絡協議会と連携し、効率的な町内会運営や新たな担い手の育成に取り組むほか、町内会加入の促進や様々な情報発信にも取り組み、安全安心な地域づくりを推進する。
- 様々な地域課題の解決に取り組む市民の自主的な活動を支援し、住民自らが考え、行動する地域づくりを推進する。

¹⁵ 特定の地域問題の解決や前進に向け、一定の分野に特化した活動を行うコミュニティ

施策5 ▶▶▶ 環境への配慮



現状と課題

- 国は2050年（令和32年）までに、カーボンニュートラル¹⁶、脱炭素社会¹⁷を掲げ、温室効果ガスの排出削減対策や再生可能エネルギーの最大限の導入といった地球温暖化対策の積極的な取組が求められている。
- 滝川市においては、「豊かな環境を一人ひとりが守り育む『環（わ）のまち』たきかわ」の実現に向けて、市民・事業者・行政が共通の目的に向かって3R¹⁸や省エネルギー化、自然環境保全、環境教育の取組を進めてきた。
- ごみの排出量は、分別方法の見直しや啓発活動等の取組の成果により減少したが、国や北海道の1人当たりの排出量を上回っていることから、更なるごみの減量化を進める必要がある。



目指す姿

- 市民・事業者・行政が環境負荷軽減の意識を持ち、行動が実践され、環境にやさしいまちとなっている。
- リサイクル率の向上とごみの減量化が図られるとともに、適正な廃棄物処理が実施され、ごみの減容化が進んでいる。

施策の方向

- 市民・事業者・行政がそれぞれの立場で自主的・積極的に省エネルギー・二酸化炭素排出量削減に向けた取組を推進するとともに、再生可能エネルギーの活用の可能性について検討する。
- 市民一人ひとりの環境問題への関心を高め、循環型社会への理解と行動を促すための啓発を行うとともに、更なるごみの減量化を目指し資源リサイクルに資するための分別項目の検討を進める。

¹⁶温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させる（全体としてゼロにする）こと。

¹⁷地球温暖化の原因となる温室効果ガスの排出量「実質ゼロ」を目指す社会

¹⁸Reduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)の3つのRの総称
製品をつくる時に使う資源の量を少なくすることや廃棄物の発生を少なくすること。使用済製品やその部品等を繰り返し使用すること。廃棄物等を原材料やエネルギー減として有効利用すること。